

●●●●桜田文庫について●●●●

岡山理科大学図書館には、図書の背に「桜田文庫」のラベルが貼ってあるものがあります。これは日本の高分子化学に多大な貢献をされた故櫻田一郎先生（以下、櫻田先生と記す。）が所蔵されていた資料で、櫻田先生が1986年にお亡くなりになられた後、今春退職された高倉孝一先生や遺族らの手によって1991年岡山理科大学図書館に寄贈されました。当初は11号館一階電動書架に桜田文庫としてコーナーを作っていましたが、その後、図書館書架の狭隘化などにより、各所在に分散しました。

桜田文庫については、ご寄贈いただいた翌年1992年「りとにゅーす」No.17にて、ご紹介しましたが、今年は櫻田先生が亡くなられてから20年を迎える節目の年でありますので、ここで改めてご冥福をお祈りするとともに櫻田先生の業績と桜田文庫を紹介いたします。

櫻田一郎先生の略歴と業績について



櫻田一郎先生

櫻田一郎先生は1904年に京都市にてお生まれになりました。

1926年に京都帝国大学工学部工業化学科を卒業された後、1928年から3年間、ドイツのライプチヒ大学およびカイゼル・ウィルヘルム研究所に留学し、セルロース（繊維素）化学を研究されました。

1934年京都帝国大学工学部助教授、翌年教授となり、わが国の高分子化学の発展に先駆的な役割を果たされました。

高分子化学は、本学では工学部バイオ・応用化学科や理学部化学科で教育・研究が行われており、澱粉、セルロース、タンパク質、プラスチックなど、大きな分子でできている物質を扱う化学の分野です。この「高分子」という

日本語を広めたのも櫻田先生です。

櫻田先生は、日本初の合成繊維を完成し、倉敷レイヨン（現、クラレ）より「ビニロン」の名で市場に出されました。当時、日本の基幹産業であった繊維産業が、デュボンの開発した「ナイロン」によって打撃を受けただけに国をあげて合成繊維の開発をしていたそうです。また、櫻田先生は、高分子化学の基礎研究を推進し、多くの門下生を育てました。

櫻田先生は、京都大学では評議員、工学部長を歴任、1967年に退官し、同志社大学教授となりました。また、1961-68年に高分子学会会長を、1967-76年に日本原子力研究所大阪研究所所長、1968年に日本化学会会長を務めるなど日本の化学界の役職も歴任されました。その功績を讃え、1967年日本学士院会員となり、1974年勲二等旭日重光章、1977年文化勲章、1986年従三位勲一等瑞宝章を受章されました。そして、今から20年前1986年6月23日にお亡くなりになりました。

参考文献：「櫻田一郎先生を偲んで」『高分子』第35巻8月号（1986年）p.743-746

朝日新聞1986年6月24日朝刊23p 「桜田一郎氏死去」